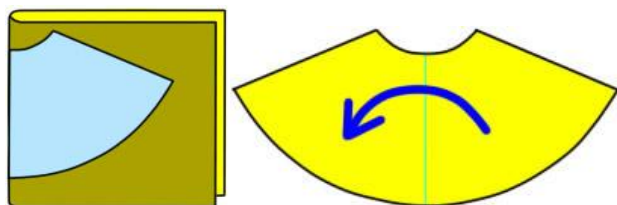
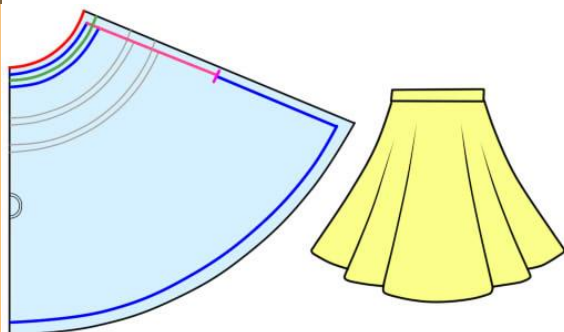


サーキュラスカートとも言います

ギャザーを寄せないタイプ

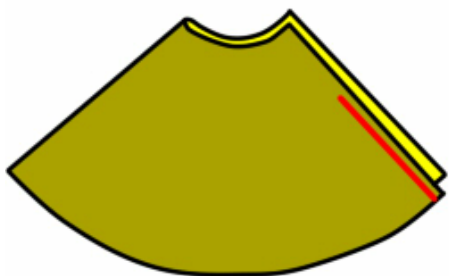
赤い線と緑の線のところで作るとギャザーなしで作れます
グレーの線で作るとウエストギャザーになります



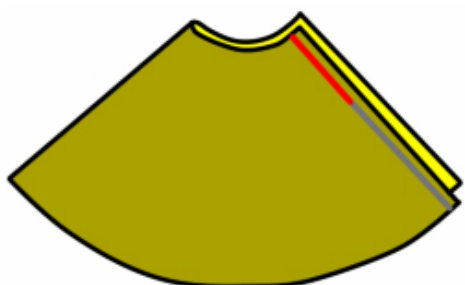
布を二つ折りして、折り目に型紙の端を重ねてください。
そして線を写し切り取ると左右対称に布が切り取れます。



裁断した全てのパーツの端を**ほつれ止め**をしてください。
ベルトとファスナーを付ける位置の縫い代の裏に接着芯を付けてください。くわしくは**縫う前の下準備**を参照。

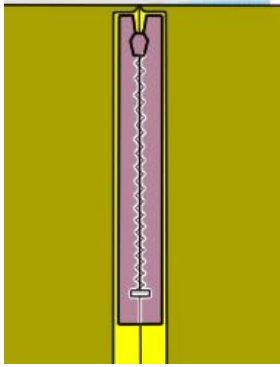


全円の場合は2枚を中表にしてファスナーが付くほうの脇を先に縫ってください。
ファスナーが付くので「あきどまり」と指示のあるところまで縫う。

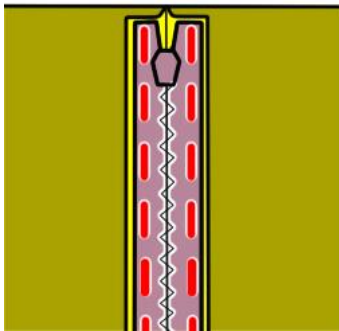


ミシンの縫い目の長さを4~5位に長くします
ファスナーを付ける部分をその大きな縫い目で縫っておきます。
後でほどくので大きめの方が楽ですよ。
手縫いでもOK。
ここを縫っておかないとあとでこう

いう感じにズレやすいです。

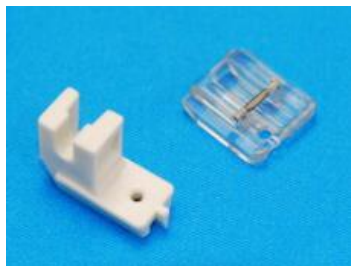


あれば熱接着の両面テープをファスナーの表面に貼ってください。
裏を上にして生地を置いてください。
熱接着の両面テープのはくり紙をはがし縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置いてアイロンで固定してください。
固定したら大きい縫い目で縫った所ははずしてOKです



熱接着の両面テープが無い場合

手縫いで2cmくらいの大きい縫い目でしつけ糸でファスナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫ってください。


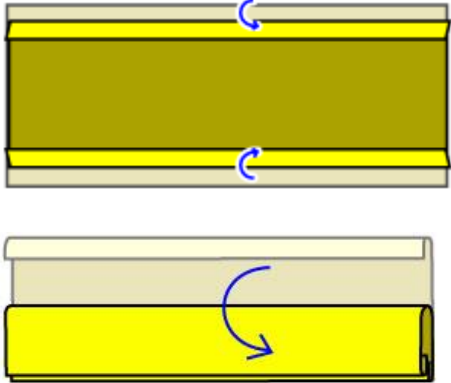
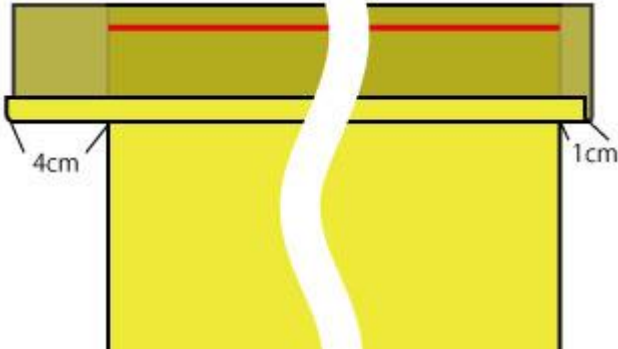
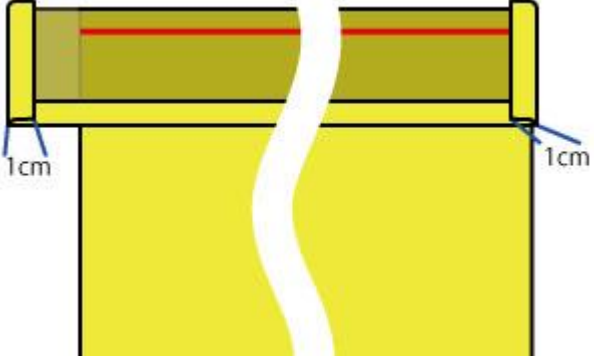
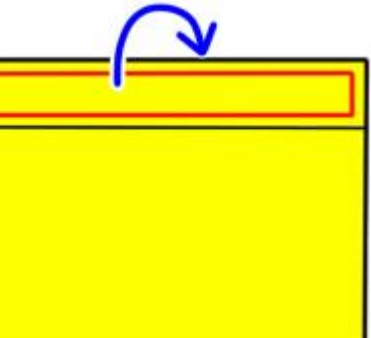


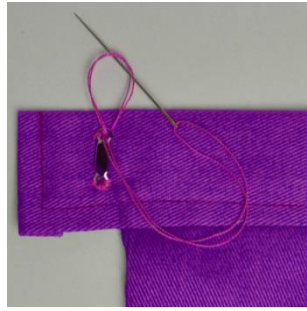
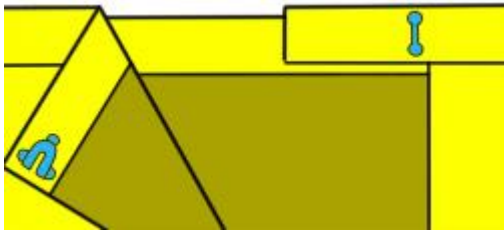
ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替えてください。
このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。
お洋服を作る人は1つ持っておくと便利です。
左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用

コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っています。



この溝にファスナーのムシ(レール部分)を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができます
そして開きどまりまで縫います
左右とも縫ってください。

	<p>ウエストベルトの裏全体に接着芯を貼っておくのを忘れずに。 芯がないとへろへろした仕上がりになるよ。</p>
	<p>ベルトの上下の縫い代を1cm内側にアイロンで折って下さい。 さらに半分に折って下さい。</p>
	<p>スカートの表側にベルトの裏を上にして重ねてください。 前身頃側はベルトの端を1cm(縫い代分)後ろ身頃側はカギホックをつけるための重なり分があるので4cmはみ出すように重ねて縫ってください。</p>
	<p>ベルトの両端1cmを裏へ折ってください。</p>
	<p>ベルトをひっくり返す。 端から0.5cmのところ縫ってベルトを固定する。</p>

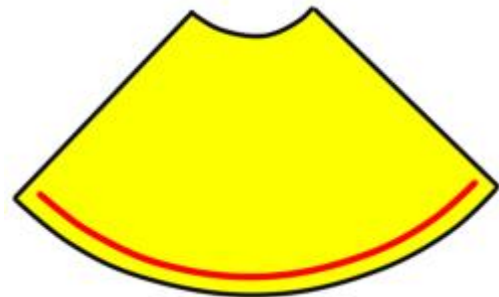


かぎホックを付ける。
このように縫っているときに出来るわっかに一度くぐらせながら縫うと、毎回止め縫いしているようなものなので、外れにくくなります。



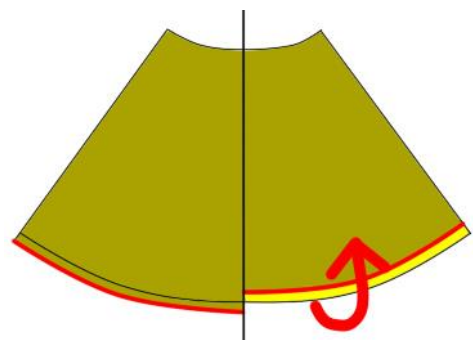
すそをアイロンで2cm縫い代を折ってください。
すその縫い代はカーブのため、**端の部分(赤い部分)**と**出来上がりの部分(青い線)**では、**端線**の方が長いのです。

このまますそ上げをすると、**端の方**が出来上がりの長さより長いので、しわがよったり綺麗にすそ上げが出来ません。



よってほつれ止めをしたあとに、すそから5mmくらいの所に、ギャザーを寄せる。

[ギャザー寄せの仕方](#)を参照下さい。

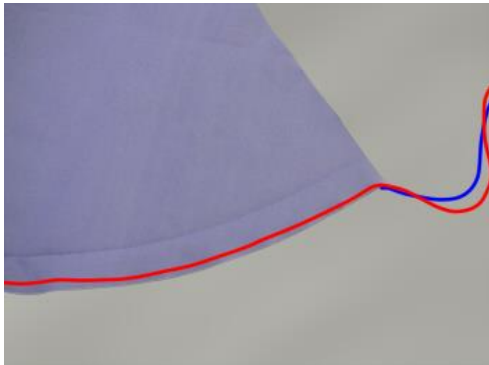


すその縫い代はカーブのため、**端の部分(赤い部分)**と**出来上がりの部分(青い線)**では、**端線**の方が長い。



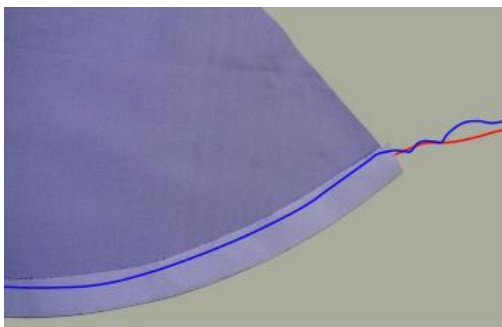
そのまますそ上げをすると、**端の方**が出来上がりの長さより長いので、しわがよったり綺麗にすそ上げが出来

ません。
このように長さの差がだぶつきになります。



このだぶつきを消すためにすそから3~5mmくらいの所に、ギャザー寄せをする。

[ギャザー寄せの仕方](#)を参照下さい



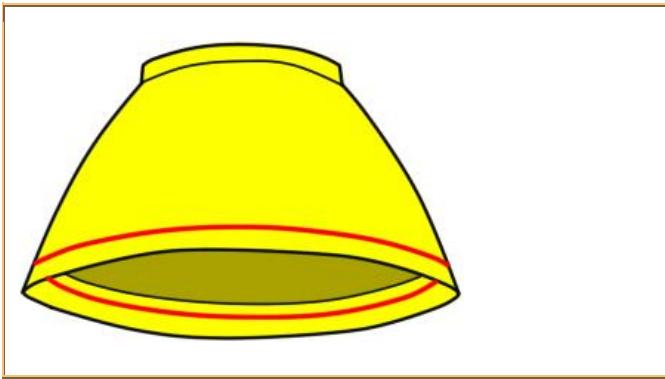
下糸(ミシンのボビン側の糸)を引っ張りながら縮める。均等に縮めながらアイロンを掛けるとこのように綺麗に落ち着きます。

※カーブのきつい場合は多少だぶつきますが何もしないよりきれいに落ち着きます。



表替えしたところ。

このようにギャザーを絞りながらアイロンを掛けると表から見て変なしわがよったりせず綺麗に仕上がります。



フリルやレースをつけても可愛いですね！

必要な材料

表の生地 接着芯 コンシールファスナー かぎホック 糸

オススメの生地

ポリエステルアムゼン(薄手)

化繊なのでシワになりにくくやわらかいので綺麗にドレープが入ります。

薄手のツイル(ギャバ)

斜めの織り模様が入った生地です。

厚手のものは張りがありますが薄めのものであれば、ドレープが綺麗に入るものもあります。

ポリエステルサテン。

光沢のある生地。

舞台衣装など華やかな衣装にしたい時はオススメ。

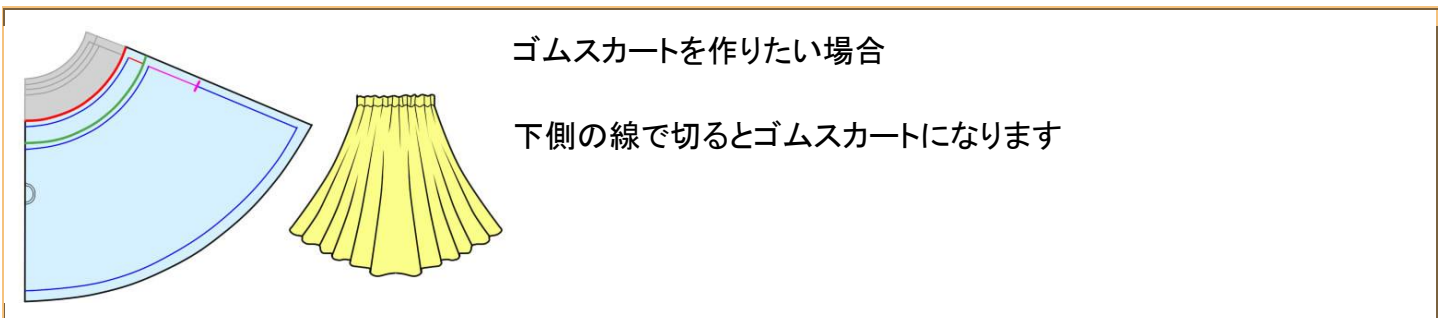
シフォンジョーゼット

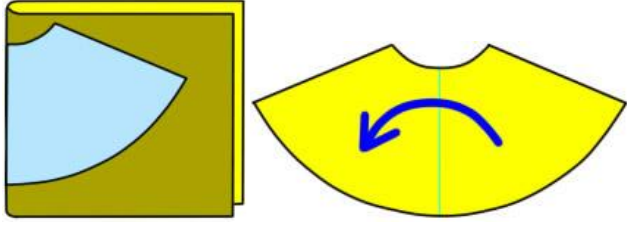
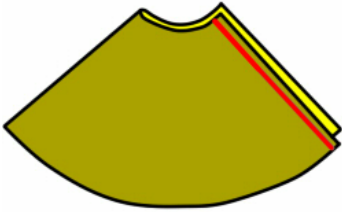
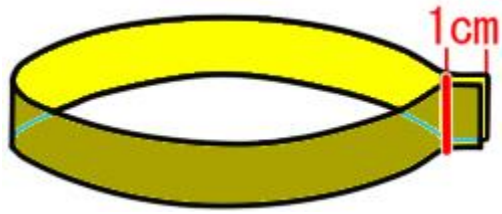
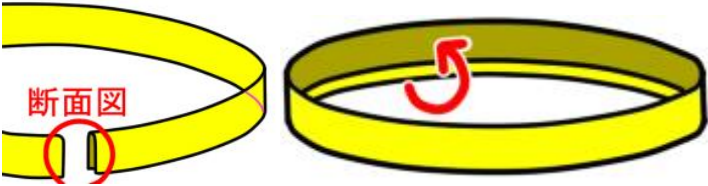
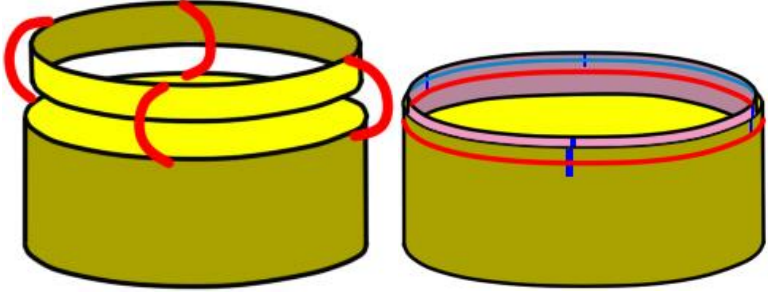
やわらかくすける素材

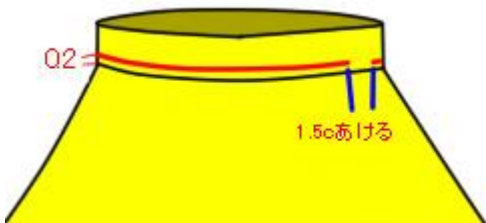
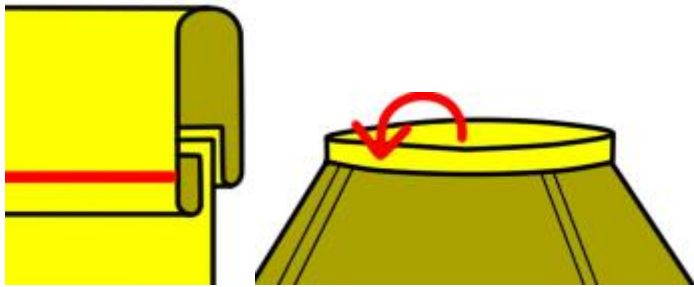
裏地と2枚重ねにすると透けずに柔らかいやさしい雰囲気のスカーツになります

関連説明書

縫う前の下準備



	<p>布を二つ折りして、折り目に型紙の端を重ねてください。 そして線を写し切り取ると左右対称に布が切り取れます。</p>
	<p>スカートを内側が表になるように重ねて脇を縫ってください。</p>
	<p>ベルトの脇を縫いわっかにしてください。 型紙の印を忘れずにつけてください。</p>
	<p>図のように帯を半分に折りアイロンで形をつけてください。 広げて、内側になるほうの縫い代をアイロンで裏へ折ってください。</p>
	<p>折り目を広げ、スカート部分と、ベルト部分を、表同士が内側になるように重ねてください。 ベルトとスカート部分の印を合わせて縫ってください。</p>

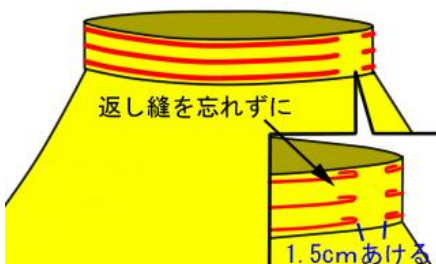


あとは半分に折り目をつけたところから折り、表からベルト付けの縫い目から2mmくらいのところを縫ってください。

尚、裏のベルトの端は、ほつれ止めをしてあれば、中に折り込まずにそのまま縫っても良いです。

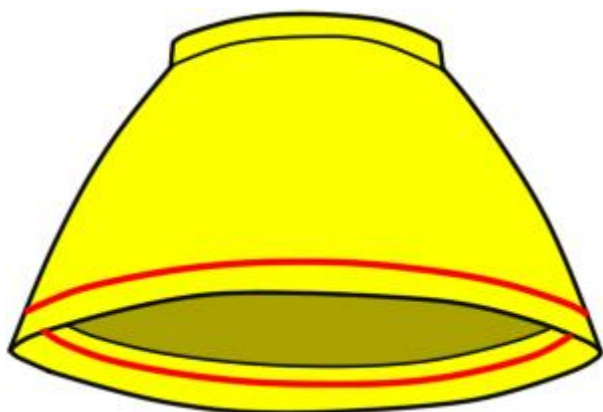
脇など目立たない所を1,5cmほど縫いあけておく。(ゴムいれの穴)

ちなみに、ゴムでギャザーが入るため、縫い閉じなくても目立ちません。



ゴムは1本でもいいのですが、2本入れた方がギャザーの量やウエストベルトの形が安定します。

特にロングスカートの場合は2本入れないと生地の手重みで耐えられなくなります



すそを縫ってください

詳しくは4~5ページのウエストベルトタイプのところを参考にしてください